



電話機の更新

デバイス プールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリング サーチ スペースなど、電話機の設定値を更新するには、[電話の更新] オプションを使用します。次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.7-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.7-3\)](#)

クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration] > [電話] > [電話の更新] > [クエリー] の順に選択します。

[電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに [検索] をクリックすると、すべての電話機を更新できます。[P.7-4 の「更新パラメータの選択」](#)に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]

■ クエリーを使用した電話機の更新

- [ロケーション]
- [電話ロード名]
- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]

2番目の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから **[AND]** または **[OR]** を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 **[検索]** をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

電話機を更新する手順を完了するには、[P.7-4](#) の「**更新パラメータの選択**」に進みます。

カスタムファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタムファイルを作成する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキストファイルを作成します。
 - MACアドレスおよびデバイス名
 - 電話番号



(注) 同一のカスタムファイルの中に、MACアドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は別のカスタムファイルに入れる必要があります。

3. テキストファイルを Cisco Unified CallManager サーバにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

カスタムファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration] > [電話] > [電話の更新] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[電話の更新の検索と一覧表示 (カスタム) (Update Phones Custom Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [更新対象: 電話、検索条件:] ドロップダウンリストボックスで、作成したカスタムファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [デバイス名] (MACアドレスを含む)
- [電話番号]
- [説明]

ステップ 3 カスタムファイルのリストで、この更新用のカスタムファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタムファイルの選択を変更することができます。

電話機を更新する手順を完了するには、[P.7-4 の「更新パラメータの選択」](#)に進みます。

更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。選択したクエリーのタイプが、[電話の更新 (Update Phones)] に表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 2 更新する前にユーザをログアウトする場合は、[更新前にユーザをログアウト (Logout Users before update)] チェックボックスをオンにできます。フィールドを 1 つも選択しない場合、このオプションを使用してユーザを一括してログアウトすることもできます。



(注) 更新する前にユーザをログアウトすることは、オプションです。

ステップ 3 クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、[P.7-5 の「電話機を更新する場合のフィールドの説明」](#)を参照してください。

ステップ 4 チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。

ステップ 5 [ログアウト / リセット / リスタート (Logout/Reset/Restart)] 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。

- [電話をリセット / リスタートしない (Don't Reset/Restart devices)] : 後でデバイスをリセットまたは再起動する。
- [電話のリセット (Reset phones)] : 電話機をリセット (電源をオン / オフ) する。
- [電話のリスタート (Restart phones)] : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットする。

ステップ 6 必要な電話機パラメータを更新します。電話機を更新する場合のフィールドの説明については、[表 7-1](#)を参照してください。

ステップ 7 [送信] をクリックして、レコードを更新するジョブを作成します。

ステップ 8 Bulk Administration メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 51 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.54-3 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.7-13 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機を更新する場合のフィールドの説明

表 7-1 では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。関連する手順については、P.7-13 の「関連項目」を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified CallManager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|---|--|
| [説明 (Description)] | デバイスを識別しやすくする説明を入力します。 |
| [デバイスプール (Device Pool)] | このグループの電話機またはポートが属するデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース）を定義します。 |
| [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] | 適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。電話機ボタン テンプレートは、電話機に表示するボタンの設定を決定し、各ボタンをどの機能（回線、短縮ダイヤルなど）に使用するかを指定します。 Cisco Unified CallManager では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対するこのフィールドを利用できません。 |
| [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] | このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。 |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] | このグループの電話機またはポートが属するコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。 |
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] | デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。 |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] | このグループの電話機またはポートが属するメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。 |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)] | このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。 |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)] | このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオ ソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき) に音楽を再生します。 |
| [ロケーション (Location)] | このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。 ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。 |
| [ユーザロケール (User Locale)] | このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。 |
| [ネットワークロケール (Network Locale)] | このユーザに関連付けるネットワークロケールを選択します。 ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。 |
| [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] | [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リストボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします ([On]、[Off]、または [Default] を選択します)。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。 |
| [プライバシー (Privacy)] | プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リストボックスで [On] を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。 |
| [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] | プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。 |
| [電話ロード名 (Phone Load Name)] | 該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。  (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco Unified IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを指定します。 |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|---|--|
| [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] | システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。 |
| [ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)] | ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] | このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号が共有回線を指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。 |
| [プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)] | |
| [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] | ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。 [None] : モードを指定しない場合は [None] を選択します。 [Real-Time Mode] : リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 [Batch Processing Mode] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。 |
| [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] | パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。 |
| [プレゼンスグループ (Presence Group)] | プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。 |
| |  <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p> |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|--|---|
| [デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)] | <p>SCCP および SIP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p> <p> ヒント プロファイルに設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定に関連します。製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理するには、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、CAPF 設定値を指定する必要があります。</p> |
| [SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] | <p>プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco Unified CallManager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって決まります。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリング検索スペースを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』を参照してください。</p> |
| [不在ポート (Unattended Port)] | このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| [DTMF受信が必要(Require DTMF Reception)] | SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。 |
| [外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)] | |
| [情報 (Information)] | 情報ボタン用のヘルプテキスト URL を入力します。 |
| [ディレクトリ (Directory)] | ディレクトリ サーバの URL を入力します。 |
| [メッセージ (Messages)] | ボイスメッセージのアクセスパイロット番号を入力します。 |
| [サービス (Services)] | サービスメニューの URL を入力します。 |
| [認証サーバ (Authentication Server)] | <p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p> |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|---|--|
| [プロキシサーバ (Proxy Server)] | <p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> |
| [アイドル (Idle)] | [アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone ウィンドウに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、ウィンドウにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。 |
| [アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] | 電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。 |
| [内線情報 (Extension Information)] | |
| [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] | <p>エクステンション モビリティ フィールドを更新する場合は、左側の最初のチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを有効にする場合は右側のチェックボックスをオンにし、エクステンション モビリティを無効にする場合はオフにします。</p> <p>エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p> |
| [ログアウトプロファイル (Log Out Profile)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスで、必要なログアウト プロファイルを次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [現在のデバイス設定を使用] • [ユーザデバイスプロファイルを選択] <p>2 番目のオプションを選択すると、[ユーザデバイスプロファイルの設定 (User Device Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。ドロップダウンからデバイス プロファイル名を選択し、[閉じる] をクリックして、[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに戻ります。</p> |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます) | |
| [証明書の操作 (Certificate Operation)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書の実行操作を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [No Pending Operation]: このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 [Install/Upgrade]: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 [Delete]: 証明書のオペレーションを削除します。 [Troubleshoot]: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。 |
| [一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)] | このチェックボックスは、必要に応じてオンに設定します。 |
| [認証文字列 (Authentication String)] | [認証モード (Authentication Mode)] が [By Authentication String] の場合は、認証文字列を入力します。または、システム生成の文字列を入手するために [文字列を生成] をクリックします。 |
| [操作の完了 (Operation Completes By)] | 証明書の実行操作を完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。 |
| [MLPP 情報 (MLPP Information)] | |
| [MLPP 表示 (MLPP Indication)] | <p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てられた設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Default]: デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 [Off]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 [On]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 |
| (注) | [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [Forceful] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [Off] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。 |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|---|--|
| [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] | <p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンブション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Default]: デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 [Disabled]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理しません。 [Forceful]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [Forceful] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [Off] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p> |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など) | このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。 |
| [セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)] | |
| [セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)] | セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。 |
| [セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)] | セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。 |
| [IP Phone サービスの割り当て (Assign IP Phone Services)] | |
| [このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add all services from this template)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話の更新に使用するサービスのリストが入ったテンプレートを選択します。</p> <p>[IP Phone サービスの編集] リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco IP Phone サービスを更新できます。</p> |
| [重複の削除 (Remove Duplicate)] | 重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。 |
| [プロダクト固有の情報] | |
|  (注) | このフィールドは、同じデバイス タイプに属するデバイスを選択した場合だけ表示されます。 |

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

| フィールド | 説明 |
|------------------------------------|---|
| [Device Security Mode] | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[Use System Default] : 電話機はエンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定された値を使用します。</p> <p>[Non-secure] : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified CallManager が利用できます。</p> <p>[Authenticated] : Cisco Unified CallManager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>[Encrypted] : Cisco Unified CallManager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。</p> |
| [Disable Speakerphone] | スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| [Disable Speakerphone and Headset] | スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| [Forwarding Delay] | このフィールドを使用して転送遅延を有効または無効にします。コールの転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。 |
| [PC Port] | このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。 |
| [Setting Access] | このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。[Enabled] および [Disable] を選択できます。 |
| [Gratuitous ARP] | Gratuitous ARP を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。 |
| [PC Voice VLAN Access] | PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。 |
| [Video Capabilities] | ビデオ機能アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。 |
| [Auto Line Select] | 電話機での自動回線選択を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。 |
| [Web Access] | 電話機での Web アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。 |



(注) 手順を完了するには、P.7-4 の「更新パラメータの選択」に進みます。

関連項目

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.7-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.7-3\)](#)
- [更新パラメータの選択 \(P.7-4\)](#)
- [電話機を更新する場合のフィールドの説明 \(P.7-5\)](#)

